

和田あき子議員の2月県議会での一般質問の要旨をお知らせします。
一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。



知事の政治姿勢について

和田 護国神社の崇敬者会の会長として寄付集めの趣意書で協賛を呼び掛けたことは、知事が特定の宗教と結びつくもので違憲と言われても仕方ない。崇敬者会の会長は辞めるべき。9月議会で知事は、様々な意見を聞き考え方を慎重に整理したいと答えた。どんな場で、どんな意見を聞いたか。

知事 東京などに出かけた際、公務の合間に弁護士や憲法学者などから話を聞いてきた。

台風19号災害の対応について

和田 浸水被害は床下でも床上でも畳や床をあげ、泥出しや災害ゴミの処分など、浸水が50cmでも1mでも片付けは同じ。浸水深に関わらず床上浸水は一律に全壊にするなど、住家の被害認定基準を見直すべき。また、生活基盤を立て直せるよう、被災者に寄り添った被災者生活再建支援法の抜本的な見直しを。

危機管理部長 知事が全国知事会の一員として半壊の査定要件の緩和を救急要望した。

千曲川の治水対策について

和田 信濃川水系緊急治水対策プロジェクトで、私たちが提案してきた遊水地や田んぼダムなどが盛り込まれたことは歓迎する。目標や対策のメニューは示されたが、重要な基礎データとなる台風19号の洪水の最大流量が示されていない。

建設部長 国からは、立ヶ花観測所での最大の流量を暫定値で約毎分8100tと確認している。

和田 立ヶ花で8100tの流量は計画高水位を下回っているのになぜ決壊したのか。疑問に真摯に答えることが行政の責任だ。

浅川の治水対策について

和田 浅川の内水氾濫シミュレーション結果の住民説明会の1回目では、浸水範囲は既往最大248.5haを約75ha上回る323haと説明したが、2回目は217haと説明した。「浅川総合内水対策計画」には遊水地が盛り込まれておらず、住宅の床下浸水は防げないとされている。計画を見直すべきではないか。

建設部長 計画では、排水機場のポンプ増設、堤防のかさ上げ、二線堤の整備で床上浸水は発生しない結果が出ている。今後5年間で前倒し実施する。

質問を終えて

「19号台風で自宅は全壊したが、戻って暮らしたい」との思いにこたえて、治水対策をこうじるよう頑張ります。

